

依つて後人之を普光院地獄といふとある。

**フゴウカヤクシヨ** 符合方後所 ↓シヨムキゴニユウウカタトリチヨウリゴヨウ諸御入用方取調理御用。

**フコウジ** 普光寺 河北郡横濱に在つて、眞宗東派に屬する。もと同郡中須賀に居たが、延寶二年今の所に移つた。

**フゴウシヨ** 符合所 御算用場中の一分配で、藩財政の收支過不足を調整統計する所である。

**フコウスカイ** 武功圖解 一册。有澤武貞の著。戦場の地形・物見・標的等を圖説したもので、寶永五年の作である。

**フサイイン** 豐財院 (一)沿革一羽昨郡白瀬に在つて、曹洞宗に屬し、白石山又は白狐林と稱する。初め盤山が白石山に草庵を造り、正和元年その弟子明峰素哲が遺址に就いて當寺を興したといふ。能登名跡志に「此寺は昔盤山和尚洞谷の山中の石山に座禪の時、白狐來りて奉仕。此白狐この所に數千年住で、終に和尚の法味にあづかり佛果を得しとなん。則盤山和尚此所に一字建立有し寺也。夫より代々知識住持せり。尊き靈場なり。中にも月洞和尚は希代の所願を發し、血書の大般若經六百卷有。同血佛の三尊あり。眞時用ひられし硯・金の小刀有。誠に有がたき寶物也。」とある。↑ケツシヨダイハンニヤキヨウ血書大般若經。

(二)國寶一豐財院に十一面觀音・聖觀音・馬頭觀音の立像各一軀がある。第一は長け一六六・七種、第二は一八六・三種、第三は一七二・七種。皆一米彫で、平安朝初期に行はれた特有の作風を有しながら、藤原様式の浸漸を示し、

強中に柔味を有する。三縣共に同一工人の手に成つたものらしく、殊に馬頭觀音の奇古なる表情は、筑前觀音寺の所藏と相並んで我が國希有のものと言れるが、唯その腕部は後補である。之が豐財院に存することは、各その背部に「三觀音之内。元祿元年戊辰三月吉日奉再興、弘法大師御作、爲月妙林菩提也。施主加納屋兵衛、白石山豐財院般若靈現住光月洞在判」とあつて、同郡矢駄村から移されたものであると傳へられる。大正十三年八月文部省は之を國寶に指定した。

**フサイオシヨウゴロク** 普濟和尚語錄 一册。加賀大原山聖興寺の開山普濟善教の語録である。その永平寺藏のものは普濟教和尚法語と題せられてゐる。

**フサイゼンキユウ** 普濟善教 曹洞宗の僧。加賀河北郡の人。幼にして淨住寺了光を禮して薙髮し、次いで丹波水澤寺の通幻寂靈に依つた。通幻の總持寺を司るに及び、普濟亦之に従ひ、康應元年印可を受け、加賀の聖興寺に住し、明徳四年總持寺に上り、辭して聖興寺に歸り、應永三年永澤寺を主り、五年越前の龍泉寺に遷り、同國願勝寺の開祖となり、十三年正月六十二歳を以て寂した。

**フサダ** 房田 鳳至郡大屋庄に屬する部落。

**フシオガミ** 伏拜 白山の尾添口登路、檜新宮の南の坂路をいふ。坂の口樹木の少い所から、進香者が初めて大女岳・御前岳を望んで之を拜するから名を得る。又市、瀬口の登路なる檜宿の上にも伏拜といふ所がある。

**フジキ** 夫食 夫食は藩が百姓の耕作仕入の爲貸與したものであるから、實際は作食米に同じい。併し作食は寛文中に定めた額によ

つて、各村の借受け得べき量が一定し、豊凶貧富に論なく草高に比例割當するものであり、その回収も極めて嚴重であつたから、貧農に利する所少かつた。是を以て春御貸米・増作食米・耕作御仕入米・去暮普濟御貸米・麥出來迄取扱米等の名目を以て貸與することとなつたが、これらは何れも後の享保二十年に初つた夫食御貸米に同じく、且つ夫食御貸米が初つてからも尙混じて行はれた。次いで天明元年作食米を廢するに及び、藩は前年の豊凶により春季に百姓の夫食貸米を出願することを許したが、その量は何れもより、又郡にもよつて多少の差があつた。夫食米は資産を有する百姓を除き、その他を三等又は四等に分ち、高割又は人割によつて貸附したが、これとて多くの請作を爲して前年不作の影響を受けること大きかつた者も、その損害に相當する夫食米を借受けることを得なかつたから、天保十年以來作高百石に付き夫食米概ね二石とし、資産あるものを除き、貧困の程度に隨ひて多額を貸附することにした。夫食米の返上方法は時により同じくないが、藩末に至り跡々御貸米中に編入せられた。

**フシサカ** 伏坂 フツサカ 鳳至郡内保の内の小字。

**フジシヤガタケ** 富士寫岳 江沼郡枯淵・我谷・片谷・大内領に跨る。高さ九四二米。地質半腹以上は石英粗面岩。姿態富士山に似るを以て名づけ、一に江沼富士とも單に岳山ともいふ。一説山上に不動地藏・釋迦の像を置いた嗣があつたから不地釋ヶ岳であるといふが信じられぬ。この山の奥に富士拜みといふ高地があり、晴天には富士・白山・立山を見得

る。江沼志稿に、この山の我谷領に興行十間許の仙人窟といふがあると記する。

**フシド** 伏戸 フセ 鳳至郡下町野郷に屬する部落。

**フジナス** 富士茄子 前田家所有の茶人で、名品中の名品といはれたもの。天正の大茶湯には今小路道三の所持として出され、觀る者皆その優姿に魅せられた。唐物茄子の中無類の逸品であるから富士と名づけたともいひ、駿河で見出したからだともいふ。後秀吉の有に歸し、慶長二年十一月十三日之を利家に賜はつた。

**フシミ** 伏見 ↓ヤマシナ 山科。

**フシミ** 伏見 珠洲郡正院郷に屬する部落。應安五年二月二十三日の文書に正院郷内伏見・小泊と見える。

**フシミイナリシヤリヨウ** 伏見稻荷社領 石川郡味智郷内に京都伏見稻荷社の社領があつたことは、建武元年九月の文書によつて知られる。

**フシミガハ** 伏見川 石川郡知氣寺嶺山なる城山の東から流出し、二萬堂川となり、西泉・米泉領境で額谷川と落合ひ、是より下は古保川となつて岸川に入る。伏見川は二萬堂川も古保川も含んだ名である。

**フシミガハ** 伏見川 珠洲郡唐笠嶺山より流出して、伏見領で海に入る。流域八軒許。

**フシミジ** 伏見寺 金澤野田寺町に在つて、行基山と號する。もと石川郡伏見に居たが、中興伏存の時、元和元年今の寺地を賜はり、伏存は、五年八月二日遷化した。寺藏阿彌陀如來の佛像は丈二二種一の銅製で、昭和十二年五月國寶に指定せられた。その製作時代は